2 月 6 日のメッセージ

聖書：マルコによる福音書　4：　10－12、21－34

「神の国の秘密」

私たちは不安になった時こそ、「何か」を求めます。しかし、何を聞き、何を信じれば良いのでしょうか。何が「私たちが従うべき方である」ことを担保するのでしょうか。

それは「神の国の秘密」が明らかにされているかどうかです。たとえ耳に心地よい言葉が並べられていたとしても、そこに神の国の秘密が含まれていなければ、それはただ自分に都合の良い言葉に過ぎません。

ダビデは神の言葉を無視して自分の欲望、自分の願望を実現しました。それでも赦されると思っていたのでしょうか。

神はナタンを遣わしてダビデを叱責されます。もしナタンが初めから厳しい言葉をかけたとしたら、ダビデは聞く耳を持たなかったでしょう。しかし、たとえ話によって出来事は身近なものとなります。だからダビデは激怒したのでしょう(「ダビデはその男に激怒し、ナタンに言った。『主は生きておられる。そんなことをした男は死罪だ。』」サムエル記下 12:5)。そして、激怒したことによって自らの罪にも気づかされたのでしょう(「なぜ主の言葉を侮り、わたしの意に背くことをしたのか。あなたはヘト人ウリヤを剣にかけ、その妻を奪って自分の妻とした。ウリヤをアンモン人の剣で殺したのはあなただ。」サムエル記下 12:9)。

これは、イエスのたとえも同じです。「あなたがたには神の国の秘密が打ち明けられている」(マルコによる福音書 4:11)、「御自分の弟子たちにはひそかにすべてを説明された」(マルコによる福音書 4:34)とは、手取り足取り、正解だけを教えているのではありません。むしろ、「聞く耳のある者は聞きなさい」(マルコによる福音書 4:23)と、それぞれが気づくのを待っておられるのです。

なぜ正しくたとえを受け止められるのでしょうか。それは、すでに弟子たちが「神の生きた言葉」を聞いているからです(「あなたがたは、朽ちる種からではなく、朽ちない種から、すなわち、神の変わることのない生きた言葉によって新たに生まれたのです。」ペトロの手紙一 1:23)。すでに「聞く」ことができるようになっているからです。だからイエスはたとえを用いて神の国の秘密をお伝えになりました(「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか」マルコによる福音書 4:26)。

同じ言葉は私たちにも語り続けられています。何よりイエスは、人々の聞く力に応じて語られています(「イエスは、人々の聞く力に応じて、このように多くのたとえで御言葉を語られた。」マルコによる福音書 4:33)。

だとするならば、「神の国の秘密」は、私たちにもわかるようにいつも語られているはずです。羊が羊飼いの言葉を聞き分けるように、私たちもその声に耳を傾けたいと思います(「わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。」ヨハネによる福音書 10:27)。

そして私たちも救いの輪に入れられていることを、自らの口をもって、主に感謝を献げ、神を賛美しながら歩んで参りましょう(「わたしはこの口をもって／主に尽きぬ感謝をささげ／多くの人の中で主を賛美します。」詩編 109:30)。